

資源環境経済学特別演習Ⅱ 議事録
2014年度 第9回

報告題名(title) : 中国における水稲品種改良の課題と変遷に関する考察			
報告者(name)	金 鑫	日時	11月20日 午後3時~
所属分野(labo)	農業経営経済学	場所	第2講義室
座長	小田嶋 裕幸	議事録担当者	渥美 敦順
出席者			
木谷、盛田、米澤、米倉、伊藤、石井、鈴木、スチン、宮里、タンボウニ、山口、カライ、ナスン、西田、渥美、金、藤井、町田、青木、黒岩、嶋倉、秀、武居、畠山、チリゲル、ソリゴガ、趙、マンダルフ、石塚			
報告要旨(Abstract)			
<p>周知の通り、中国は昔から自然災害が頻発する国で、農産物栽培面積における被災面積の割合が2~3割で、農業生産にかなり大きな影響を与えている。一方、人口の増加と耕地面積の減少で、食料安全保障には深刻な問題が存在している。</p> <p>災害の影響を抑えて、収量を安定させ、食糧の需要を満足するのは、品種改良と農業基盤整備の役目である。そして、緑の革命で品種改良の効果を生かすには化学肥料、農薬、農業機械の投入が必要だと解明した。そこで、中国は、食料安全保障するには上記のことをどうなっているか。</p> <p>ところで、中国は水稲の国で、7000年前から水稲を栽培している。穀物の栽培面積の中、一番大きな割合を占めていた。そこで、本研究は水稲を対象として、リスク回避の対策として品種改良はどう変化してきたかを明らかにしたい。</p> <p>具体的には、水稲品種改良の目標から、育種方法、成果を中心に、化学肥料、農薬、農業機械の利用状況と水利の整備、固定資産の投資を含めて、品種改良の変遷を整理する。</p>			

質疑・応答(Q & A)

盛田：中国には品種登録制度はあるのか？

金：ある。

盛田：品種を普及させる流れはどうなっているのか？

金：大学とか研究所が品種を開発し、省で認可される流れとなっている。

盛田：品種登録制度は、国と省でどうなっているのか？

金：国に大本があって、省にも制度がある。

盛田：品種の普及のさせ方はどうなっているのか？

金：特にない。種子は種苗会社が生産している。

盛田：だったら、農家から種苗会社に流れる利益はどうなっているのか？

金：基本的には無料で種苗会社が行っていると思うが、わからない。

盛田：中国では政府・省としての品種のガイドラインのようなものはあるのか？

金：おそらくあると思う。1996年にスーパー稲というプロジェクトがあって、高反収品種を作るという計画となっている。

盛田：優良品種とはどんなものか？

金：食味と栄養を指す。

米倉：品種は地域の特徴に合わせて改良しているのか？

金：そうだと思う。

米倉：国と省のどちらにイニシアチブがあるのか？

金：地域ごとに品種を登録しているから、地域の方が強い。

米倉：品種改良は自然災害にどの程度効果があるのか？

金：計量的に行おうと思ったがデータがない。手に入れられたデータで分析を行う。

米倉：地図の色分けの意味は？

金：特に意味は無い。

盛田：農家はどのような基準で品種を選択するのか？

金：計画経済期に国からの指示。現在合作社が機能していないところが多く、農家は自分の経験で選択するか種子会社のアドバイスで選択するのかのどちらかだ。

盛田：品種による価格差はないのか？

金：ないと思う。